

Dell™ PowerEdge™ システム用 Microsoft®
Windows Server® 2003 R2,
Standard/Enterprise/Web Edition With SP2
(32 ビット、x86)

重要情報



メモおよび注意



メモ：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



注意：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

**本書の内容は予告なく変更されることがあります。
2007 すべての著作権は Dell Inc. にあります。**

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、OpenManage、および PowerEdge は Dell Inc. の商標です。Broadcom は Broadcom Corporation の登録商標です。Microsoft および Windows Server は米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Intel および SpeedStep は Intel Corporation の登録商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

目次

サポートされている最も低いバージョン — BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ	5
信頼済みサイトのブラウザへの追加	12
Windows Server 2003 R2, Standard/ Enterprise x86 Edition With SP2 の Hardware Management コンポーネント	12
Windows のライセンス認証の要件	17
既知の問題	17
索引	23

本書では、Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard/Enterprise/Web x86 Edition With SP2 に関する重要な情報を提供します。

本書では、以下の項目について説明します。

- サポートされている最も低いバージョンの BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ
- 信頼済みサイトのブラウザへの追加
- Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise x86 Edition With SP2 の Hardware Management コンポーネント
- Windows のライセンス認証の要件
- 既知の問題

➡ 注意：システムのウイルス感染を防止するために、別のシステムを使用して Microsoft のウェブサイト www.microsoft.com からパッチ、修正プログラム、サービスパックをダウンロードすることをお勧めします。アップデートをシステムにインストールする前に、システムがネットワークに接続されていることを確認してください。

サポートされている最も低いバージョンの BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ

メモ：本項の表には、該当する Dell PowerEdge™ システムで SP2 をサポートするための最小要件を示しています。デルサポートサイト support.dell.com/support/downloads からダウンロードできる最新の BIOS、ファームウェア、およびドライバを使用することを強くお勧めします。これらは Dell PowerEdge Service and Diagnostic Utilities メディアにも収録されています。

SP2 をサポートする PowerEdge システム、および BIOS とベースボード管理コントローラ (BMC) ファームウェアのサポートされている最も低いバージョンのリストを表 1-1 に示します。

表 1-2 には、サポートされている RAID コントローラ用のシステムファームウェアおよびドライバのサポートされている最も低いバージョンを示します。ネイティブドライバは OS に含まれていますが、非ネイティブドライバは含まれていません。非ネイティブドライバとユーティリティは、デルサポートサイト support.dell.com/support/downloads からダウンロードできます。または、Dell システムに付属の Dell PowerEdge Services and Diagnostic Utilities メディアに収録されています。

お使いのシステムが表 1-1 にも表 1-2 にも見つからない場合は、システムのマニュアルを参照して SP2 がサポートされているかどうかを確認してください。

表 1-3 には、Execute Disable (XD) および Enhanced Intel® SpeedStep® Technology (EIST) をサポートする BIOS の最小要件を示します。Intel EM64T テクノロジーを備えた PowerEdge システムは、SP2 の以下の機能をサポートします。

- **データ実行防止 (DEP)**。この機能は、2004 年 10 月以降に出荷された対応済み PowerEdge システムに組み込まれている XD 対応プロセッサを必要とします。
- **System Balanced Processor Power and Performance**。この機能は、サポートされている Intel プロセッサで EIST を利用します。この OS 機能のサポートは、プロセッサのモデル、周波数、およびステッピングによって異なります。

DEP と System Balanced Processor Power and Performance は、ハードウェアのサポートを必要とする SP2 で利用できる機能です。

表 1-1 サポートされている最も低いバージョン — BIOS/BMC

PowerEdge システム	サポートされている BIOS/BMC のバージョン
最近のリリース	
800	A03/A06 またはこれ以降
830	A04/A04 またはこれ以降
840	A02/A02 またはこれ以降
850	A04/A04 またはこれ以降
860	A02/A02 またはこれ以降
1800	A07/A08 またはこれ以降

表 1-1 サポートされている最も低いバージョン — BIOS/BMC (続き)

PowerEdge システム	サポートされている BIOS/BMC のバージョン
1850	A06/A09 またはこれ以降
1855MC	A05/A04 またはこれ以降
1900	1.2.0/A02 またはこれ以降
1950	1.2.0/A06 またはこれ以降
1955	1.1.0/A03 またはこれ以降
2800	A06/A09 またはこれ以降
2850	A06/A09 またはこれ以降
2900	1.2.0/A04 またはこれ以降
2950	1.2.0/A04 またはこれ以降
2970	1.0.0/A00 またはこれ以降
6800	A04/A09 またはこれ以降
6850	A04/A09 またはこれ以降
6950	1.1.2/A02 またはこれ以降
SC420	A02 またはこれ以降
SC430	A04 またはこれ以降
SC440	1.2.0 またはこれ以降
SC1420	A04 またはこれ以降
SC1425	A03/A07 またはこれ以降
SC1430	1.1.0 またはこれ以降
SC1435	1.0.0/A03 またはこれ以降
上記以前のシステム	
300	A03 またはこれ以降
350	A09 またはこれ以降
400SC	A10 またはこれ以降
500SC	A07 またはこれ以降
600SC	A09 またはこれ以降
650	A05 またはこれ以降
700	A06 またはこれ以降

表 1-1 サポートされている最も低いバージョン — BIOS/BMC (続き)

PowerEdge システム	サポートされている BIOS/BMC のバージョン
750	A06 またはこれ以降
1300	A12 またはこれ以降
1400	A09 またはこれ以降
1500SC	A06 またはこれ以降
1550	A09 またはこれ以降
1600SC	A12 またはこれ以降
1650	A11 またはこれ以降
1655MC	A03 またはこれ以降
1750	A12 またはこれ以降
2300	A15 またはこれ以降
2400	A09 またはこれ以降
2450	A09 またはこれ以降
2500	A07 またはこれ以降
2550	A09 またはこれ以降
2600	A14 またはこれ以降
2650	A21 またはこれ以降
4300	A12 またはこれ以降
4350	A06 またはこれ以降
4400	A11 またはこれ以降
4600	A13 またはこれ以降
6300	A13 またはこれ以降
6350	A13 またはこれ以降
6400	A14 またはこれ以降
6450	A14 またはこれ以降
6600	A17 またはこれ以降
6650	A17 またはこれ以降
8450	A06 またはこれ以降

表 1-2 サポートされている最も低いバージョン — システムファームウェアおよび RAID コントローラドライバ

製品および対応プラットフォーム	サポートされているファームウェアバージョン	サポートされているドライババージョン
シリアル接続 SCSI(SAS)5/E	00.10.49.00.06.12.02.00 またはこれ以降	1.24.04.00 またはこれ以降
SAS 5/i	00.10.49.00.06.12.02.00 またはこれ以降	1.24.04.00 またはこれ以降
PowerEdge 840、860、1900、2900、2970、6950、SC440、SC1430、SC1435 上の SAS 5/iR	00.10.49.00.06.12.02.00 またはこれ以降	1.24.04.00
PowerEdge 1955 上の SAS 5/iR	00.10.49.00.06.12.02.00 またはこれ以降	1.24.04.00
PowerEdge 1950、2900、2950 上の PowerEdge Expandable RAID Controller(PERC)5/E アダプタ	5.1.1-0040 またはこれ以降	2.8.0.32 またはこれ以降
PowerEdge 1950、2900、2950 上の PERC 5/i Integrated	5.1.1-0040 またはこれ以降	2.8.0.32 またはこれ以降
PERC 4e/DC	522A またはこれ以降	6.46.2.32
PERC 4e/Si(PE1850)	522A またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PERC 4e/Di	522A またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PERC 4e/DC	522A またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PERC 4/SC および PERC 4/DC	352B またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PE 1750 上の PERC 4/Di	422A またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PE 2600 上の PERC 4/Di	252A またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PE1655MC 上の PERC 4/im	1.00.12 またはこれ以降	1.09.11 またはこれ以降
PE1855MC 上の PERC 4/im	1.03.23 またはこれ以降	1.09.11 またはこれ以降
PERC 3/SC、PERC 3/DC、PERC 3/DCL、PERC 3/QC	199A またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降

表 1-2 サポートされている最も低いバージョン—システムファームウェアおよび RAID コントローラドライバ (続き)

製品および対応プラットフォーム	サポートされているファームウェアバージョン	サポートされているドライババージョン
PERC 3/Di および PERC 3/Si	2.8.1.6098 またはこれ以降	2.8.0.6085 またはこれ以降
PERC 2	2.8.1.6099 またはこれ以降	2.8.0.6085 またはこれ以降
PERC 2/Si(PE2400)	2.8.1.6098 またはこれ以降	2.8.0.6085 またはこれ以降
PERC 2/SC	3.13 またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PE 2300、4300、6300 上の PERC 2/DC	1.06 またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PE 2400、4400、6400 上の PERC 2/DC	1.06 またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降
PERC 320/DC	5813 またはこれ以降	5810 またはこれ以降
Adaptec U320 SCSI RAID 0 または 1	4.30.455 またはこれ以降	2.0.38.0 またはこれ以降
Adaptec 39160	3.10 またはこれ以降	6.4.630.100 またはこれ以降
Adaptec 39320/39320A	4.30.1 またはこれ以降	3.0.0.0 またはこれ以降
1020/1030 内蔵	1.03.23 またはこれ以降	1.09.11 またはこれ以降
Cost Effective Raid Controller (CERC) SATA 2s	-	6.0.50.5 またはこれ以降
CERC SATA 1.5/6CH	4.1.0.7417 またはこれ以降	4.1.1.7040 またはこれ以降
CERC ATA 100/4CH	6.67	6.46.2.32 またはこれ以降



メモ: ドライバとファームウェアは、Dell PowerEdge Service and Diagnostic Utilities メディア、または System Support メディアに収録されています。また、デルサポートサイト support.dell.com からダウンロードすることも可能です。

表 1-3 には、Execute Disable (XD) および EIST をサポートする BIOS の最小要件を示します。

表 1-3 Dell PowerEdge システム上で XD および EIST をサポートする BIOS の最小要件

PowerEdge システム	XD のサポートに最低必要な BIOS のリビジョン	EIST のサポートに最低必要な BIOS のリビジョン
830	A04	A04
840	A02	A02
850	A04	A04
860	A02	A02
1800	A07	A07
1850	A06	A06
1855	A05	A05
1900	1.2.0	1.2.0
1950	1.2.0	1.2.0
1955	1.1.0	1.1.0
2800	A06	A06
2850	A06	A06
2900	1.2.0	1.2.0
2950	1.2.0	1.2.0
6800	A04	A04
6850	A04	A04
SC430	A04	A04
SC440	1.2.0	1.2.0
SC1420	A04	EIST はサポートされていません
SC1425	A03	A03
SC1430	1.1.0	1.1.0

信頼済みサイトのブラウザへの追加

Microsoft の高度なセキュリティ基準により、インターネットまたはイントラネットのサイトにはじめてアクセスする場合、サイトを信頼済みサイトゾーンに追加するように求めるメッセージが表示される場合があります。

ブラウザに信頼済みサイトを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ツール メニューで **インターネットオプション** をクリックします。
インターネットオプション ウィンドウが表示されます。
- 2 **セキュリティ** タブ をクリックします。
セキュリティ タブのメニューが表示されます。
- 3 **信頼済みサイト** → **サイト** の順にクリックします。
信頼済みサイト ウィンドウが表示されます。
- 4 次の **Web サイトをゾーンに追加する** フィールドにサイトのアドレスを入力して、**追加** をクリックします。
Web サイト ボックスにサイトが表示されます。
- 5 手順 4 を繰り返して他のサイトを追加し、**閉じる** をクリックします。
インターネットオプション ウィンドウが表示されます。
- 6 **OK** をクリックします。

Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise x86 Edition With SP2 の Hardware Management コンポーネント



メモ：Hardware Management コンポーネントは、Windows Server 2003, Web x86 Edition With SP2 では利用できません。

Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise x86 Edition With SP2 には、Hardware Management と呼ばれるオプションのコンポーネントが含まれています。Hardware Management には、システムハードウェアの管理を改善する一連の機能があります。

Hardware Management コンポーネントの詳細については、Microsoft のウェブサイト www.microsoft.com/technet/scriptcenter/preview/wsm/intro.msp で関連する情報を参照してください。

追加の R2 コンポーネントをインストールする詳細な手順については、ユーザズガイドのウェブサイト www.dell.com/ostechsheets で、Dell PowerEdge システム用 Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise/Web x86 Edition With SP2 の『インストール & セットアップガイド』を参照してください。

BMC が含まれているシステムに Hardware Management コンポーネントをインストールする際に、次のメッセージが表示される場合があります。

An IPMI device has been registered within the system BIOS; all 3rd party IPMI drivers must be removed from the system prior to installation in order to prevent system instability; if all 3rd party drivers have been removed or you wish to ignore this risk press 'OK' otherwise press 'Cancel'. (システム BIOS 内には、IPMI デバイスが登録されています。システムが不安定になることを避けるには、インストールを実行する前にサードパーティの IPMI ドライバをすべてシステムから削除する必要があります。すべてのサードパーティ製ドライバが削除されているか、またはこのリスクを無視する場合は、OK を押します。それ以外の場合は キャンセル を押します。)

続行する前にサードパーティ製のインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (IPMI) ドライバをすべてアンインストールすることをお勧めします。



メモ：Dell OpenManage™ 4.5.x では R2 IPMI ドライバは使用できず、Dell IPMI ドライバが必要です。第 8 世代の PowerEdge システムの管理に Dell OpenManage 4.5.x を使用する場合は、システムに R2 IPMI をインストールしないことを強くお勧めします。各種 Dell OpenManage に R2 IPMI ドライバを使用した場合の影響と Dell OpenManage において発生し得る制約の詳細については、デルサポートサイト support.dell.com を参照してください。

Hardware Management コンポーネントをインストールした後、(必要に応じて) 次のコマンドを使用して IPMI デバイスドライバを手動でインストールします。Rundll32 ipmisetp.dll, AddTheDevice
IPMI デバイスは、**デバイスマネージャ** を開くと、**システムデバイス** の下の **Microsoft Generic IPMI Compliant Device** (Microsoft のジェネリック IPMI 対応デバイス) という項目の下に表示されます。

各種 Dell OpenManage に R2 IPMI ドライバを使用した場合の影響と Dell OpenManage において発生し得る制約の詳細については、デルサポートサイト support.dell.com を参照してください。

Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise x86 Edition With SP2 の Hardware Management コンポーネントと IPMI ドライバは、IPMI バージョン 1.5 およびこれ以降をサポートする BMC を備えた PowerEdge システムのみをサポートします。Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise x86 Edition With SP2 の IPMI ドライバは、IPMI バージョン 1.0 をサポートする BMC を備えた PowerEdge システムをサポートしていません。これらのシステムは、Dell OpenManage IPMI ドライバを引き続き使用できます。

表 1-4 は、PowerEdge システムにおける R2 IPMI ドライバと Dell OpenManage IPMI ドライバのサポートマトリクスを示したものです。

表 1-4 R2 IPMI および Dell OpenManage ドライバのサポートマトリクス

PowerEdge システム	R2 IPMI ドライバのサポート	Dell OpenManage IPMI ドライバのサポート
最近のリリース		
800	○	○
830	○	○
840	○	○
850	○	○
860	○	○
1800	○	○
1850	○	○
1855	○	○
1900	○	○
1950	○	○
1955	○	○
2800	○	○
2850	○	○
2900	○	○

表 1-4 R2 IPMI および Dell OpenManage ドライバのサポートマトリクス (続き)

PowerEdge システム	R2 IPMI ドライバのサポート	Dell OpenManage IPMI ドライバのサポート
2950	○	○
2970	○	○
6800	○	○
6850	○	○
6950	○	○
SC420	×	×
SC430	×	×
SC440	×	×
SC1420	×	×
SC1425	○	○
SC1430	×	×
SC1435	○	○
上記以前のリリース		
300	×	×
350	×	×
400SC	×	×
500SC	×	×
600SC	×	×
650	×	○(Dell Remote Assistant Card [DRAC] が必要)
700	×	○(DRAC が必要)
750	×	○(DRAC が必要)
1300	×	×
1400	×	×
1500SC	×	○
1550	×	○
1600SC	×	○(DRAC が必要)
1650	×	○

表 1-4 R2 IPMI および Dell OpenManage ドライバのサポートマトリクス (続き)

PowerEdge システム	R2 IPMI ドライバのサポート	Dell OpenManage IPMI ドライバのサポート
1655MC	×	×
1750	×	○
2300	×	○
2400	×	○
2450	×	○
2500	×	○
2550	×	○
2600	×	○
2650	×	○
4300	×	○
4350	×	○
4400	×	○
4600	×	○
6300	×	○
6350	×	○
6400	×	○
6450	×	○
6600	×	○
6650	×	○
8450	×	○

Windows のライセンス認証の要件

OS のインストールにデルから購入された再インストール用メディアを使用するシステムは、インストール中に Product ID (PID プロダクト ID) の入力が不要で、Microsoft 製品のライセンス認証も必要ありません。

 **メモ**：デルから購入されたメディアを使用しない場合は、Windows のライセンス認証 ウィンドウでライセンス認証が求められます。

OS の再インストールの詳細については、Dell PowerEdge システム用 Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise/Web x86 Edition With SP2 の『インストール & セットアップガイド』を参照してください。

既知の問題

本項では、Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise/Web x86 Edition With SP2 に関する既知の問題について説明します。

- **OS の無人インストール中に静的 IP アドレスを仮想バスドライバのネットワークインタフェースに割り当てる操作が失敗する。**

OS のインストールが完了すると、無人ファイル内の **TcpipParams.AdapterX** セクションに指定されているすべてのパラメータがデフォルト値に戻ります。この問題は、Broadcom 5708 など、仮想バスドライバモデルを使用しているすべてのネットワークカードで発生します。

OS はデバイスノードを使用してすべてのデバイスを追跡します。ネットワークカードのデバイスノードは仮想バスに接続されており、仮想バスには PCI マッピングデータが含まれていません。Windows の無人インストーラは、デバイスとその設定の照合に PCI マッピングデータを使用するため、ネットワークカードを検出することができません。

この問題を回避するには、無人ファイルの **TcpipParams.AdapterX** セクションにある MAC (Media Access Control) アドレスを使用します。デルサポートサイト **support.dell.com** から最新のネットワークドライバをダウンロードしてください。詳細については、デルサポートサイト **support.dell.com** で『Best Practices for Installation of Microsoft Windows on Dell Servers with Broadcom NetXtreme Devices』(Broadcom NetXtreme デバイスが装備された Dell サーバーに Microsoft Windows をインストールする最善手順) を参照してください。

- **デバイスマネージャ内でストレージバックプレーンが黄色い警告マークとして表示される。**

この問題が発生するのは、Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise/Web x86 Edition With SP2 を特定のストレージバックプレーンにインストールする場合です。OS の一部であるバックプレーンの INF ファイルには、最新のサーバーバックプレーン用のエントリがない場合があります。

この問題を解決するには、デルサポートサイト **support.dell.com** から最新の INF ファイルをダウンロードし、インストールしてください。OS が工場出荷時にインストール済みであるか、または Dell OpenManage Server Assistant を使用してインストールした場合には、この問題は発生しません。インストール処理中に最新の INF ファイルがインストールされるためです。

- **x64 の Windows Deployment Services (WDS) を x64 ベースのクライアントコンピュータにインストールしようとすると、インストールが開始しない。**

WDS を実行している Windows Server 2003 ベースのコンピュータから x64 をインストールすると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
PXE-T01: File not Found and
```

```
PXE-E3B: TFTP Error - File not Found
```

この問題が発生するのは、クライアントコンピュータが WDS に対して正しくないアーキテクチャを報告するためです。

この問題を回避するには、**Wdsutil.exe** コマンドラインツールを使用して WDS 内のアーキテクチャの検出を有効にします。有効にするには、サーバーのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
wdsutil /set-server /architecturediscovery:yes
```

詳細については、Microsoft サポートサイト **support.microsoft.com** で技術情報の記事 932447 および 222177 を参照してください。

- **IPMI ドライバが、デバイスマネージャ内で黄色い警告マークとして表示される。**

R2 IPMI ドライバを、BMC で設定されていないシステムに手でインストールした場合、**デバイスマネージャ** 内でそのドライバに黄色い警告マークが表示され、ドライバが起動できなかったことを示すメッセージが表示されます。

これは予期される動作です。ドライバが BMC と通信できないからです。

この問題を回避するには、BMC がサポートまたはインストールされていないシステムには IPMI ドライバをインストールしないでください。

- **R2 システム上の MSCS (Microsoft Clustering Services) の有効化。**

R2 システム上の MSCS を有効にするには、R2 の追加コンポーネントをインストールする前に MSCS を設定する必要があります。追加の R2 コンポーネントがインストールされている場合は、いったんアンインストールし、MSCS を設定してから R2 コンポーネントを再インストールします。この手順を実行することで、R2 コンポーネントはクラスタ環境内で正常に機能するようになります。

- **サードパーティのハイパーターミナルとの互換性の問題。**

Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise/Web x86 Edition With SP2 と Hilgraeve HyperTerminal v6.3 などの一部のターミナルエミュレーションプログラムとの間には互換性の問題があり、2 台のシステムの間にシリアル接続を確立することができません。

- **Intel I/O Controller Hub (サウスブリッジ) として ICH5R または ICH6R が装備されている PowerEdge システムのオンボード SATA コントローラが Ultra ATA コントローラとして表示される。**

Microsoft では、オンボード SATA コントローラに IDE ポートドライバ (**atapi.sys**) を使用しています。ポートドライバに属する **inf** ファイルのデバイスの説明部分は、SATA コントローラ用にアップデートされません。これが原因で、PowerEdge システム上のオンボード SATA コントローラが、Ultra ATA Storage Controller - 24D1 または Ultra ATA Storage Controller - 2652 として表示されます。

- **多言語ユーザーインターフェイス (MUI) をインストールした後も、ユーザーインターフェイスのコンポーネントに英語のテキストが表示される。**

Microsoft Management Console 3.0、Windows Deployment Services、および Microsoft File Server Manager のユーザーインターフェイスのコンポーネント (リスト、メニュー、ダイアログボックス、ヘルプ、およびその他の場所) には、MUI がインストールされているにもかかわらず、英語のテキストが表示されます。ユーザーインターフェイスのコンポーネントをカスタマイズする方法、および MUI のアップデートパッケージをダウンロードする方法については、Microsoft のサポートサイト **support.microsoft.com** で Microsoft 技術情報の記事 925148 を参照してください。

- **MUI メディアを再度使用して言語設定の変更を試みると、MUI のインストールが失敗する。**

MUI メディアのコンテンツをインストールすると、**MUISetup.exe** を使用して MUI パッケージがインストールされます。

MUISetup.exe を使用して MUI パッケージの再インストールを試みると、Windows の MUI アプリケーションが起動しません。バイナリが一致するかどうかを確認するために **MUISetup.exe** が **%windir%\mui** フォルダをチェックしますが、このフォルダがシステムファイルのプロテクションメカニズムによって新しいバージョンのファイルに置き換えられているために、この問題が発生します。バイナリの不一致が原因で MUI ウィンドウが起動しないのです。

現在の言語設定を変更するには、コマンドプロンプトから次のコマンドを実行します。

```
muisetup.exe /i < 言語 ID>
```

現在の言語設定を削除するには、コマンドプロンプトから次のコマンドを実行します。

```
muisetup.exe /u < 言語 ID>
```

 **メモ**：言語 ID のリストはヘルプファイルを参照してください。

Windows Server 2003 R2 With SP2 の他のバージョンの問題については、デルのマニュアルのウェブサイト www.dell.com/ostechsheets で対応する『重要情報』を参照してください。

索引

B

BIOS

- EIST をサポートするための最小要件, 11
- XD をサポートするための最小要件, 11
- システム, 5

E

EIST, 11

H

Hardware Management, 12

I

IPMI

- デバイス, 13
- ドライバ, 13

M

Microsoft, 12

W

Windows Server 2003 R2

重要情報, 12

X

XD, 11

き

黄色い警告マーク, 17

既知の問題

IPMI ドライバが黄色い警告マークとして表示される, 19

し

信頼済みサイト

ブラウザへの追加, 12

重要情報

Windows Server 2003 R2, 12

て

デバイスマネージャ

黄色い警告マーク, 17

